

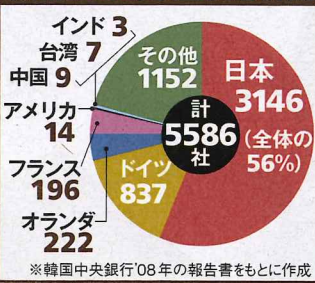
実は、日本は世界一の “老舗大国”だった!!

08年に韓国銀行がまとめた報告書によると、08年時点で2000年以上の歴史を持つ老舗企業は世界41か国で5586社。そのうち日本は3146社(全体の56%)とダントツだという。「1000年企業サミット」を主催し、長寿企業つくりのコンサルティングを行うTOMAコンサルタンツグループの藤間秋男理事長はこう語る。

「世界最古の企業は、578年創業の金剛組。約1500年の歴史を持つ、大阪市にある建設会社です。世界2位の企業は山梨県の旅館・慶雲館。以下、世界の超・老舗企業の上位を日本企業が独占しています。これはまた別の調査ですが、日本には創業1000年以上の企業が7社、500年以上が32社、100年以上が5万社以上といわれています」

ところで、なぜ日本にはこれほど老舗企業が多いのだろうか？
「日本は島国で、他国の支配を受

創業200年以上の企業数



けることがなかったこと、それから日本人の勤勉性があげられます。仕事に手を抜かず、一途に打ち込む国民性。『暖簾に磨きをかける』と言いますが、社風・ブランド・商品・社員を育て、それをいい状態で次の世代に渡すことが美德とされてきました。長寿企業に共通しているのは、『家訓』や『理念』がしっかりと受け継がれているということ。そして、後継者を育てることを大事にしてきたからこそ何代も続くことができたのです」

しかし最近では、日本の企業もほとんど生まれずには消えている。『日経新聞』が96年に新設法人8万社の存続率を調査したところ、1年後には60%に、10年後には5%との結果が出た。10年続いた会社は、20社に1社しかなかったのだ。

「これら多くの会社が続かなかった理由を精査すると、やはり『確固たる理念がなかった』というところに行き着きます。今後ますます、老舗企業の『持続可能な経営』の秘密を学ぶべき必要性が出てくると思います」



藤間秋男氏

TOMAコンサルタンツグループ
代表取締役理事長、公認会計士。
永続経営に役立つ「TOMA特別
講演会」を11月25日にステーション
コンファレンス東京で開催。
詳しくは(<http://toma.co.jp>)にて